

**○22番（松尾初秋君）〔登壇〕**

おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、22番松尾初秋の一般質問をさせていただきます。執行部の答弁のほうは正確で簡潔にお願い申し上げます。ちょっと私、風邪引いておりまして元気がないので、ちゃんと質問できるかちょっと心配でございますけれども、自分なり頑張りたいと思います。

まずもって、飛龍窯灯籠祭りについてであります。

これは、3月議会で谷口議員がちょっとお話をされておりました、同僚の松尾議員と一緒にいったという話でございました。確かにいった。でも、思うところ、感ずるところは全然180度違うとったわけです、谷口議員と。その話をまずしたいと思うわけです。

谷口議員は、そのとき窯、あの窯を喫茶店に使うとっていうことはけしからんと、窯はたかんばいかんという話をされました。何ば言いよっね、攝久さんと、こいがよかくさんと私は話をしたわけですよ。これが労力のかからんでよっぼどましくさんと、そこで、私はそういう話をして、考えるところ、感ずるところ、全然180度違うとった。でも仲よく帰りましたよね。

そこで、質問として、以前の飛龍窯祭りでは窯たきに要した労力、期間はどれくらいだったのか、まずお尋ねしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

森営業部長

**○森営業部長〔登壇〕**

質問にお答えします。

平成19年度まで実施していた飛龍窯祭りにつきましては、窯たきの約5カ月前から作品の全国公募をいたしまして、窯詰めから火入れ式、あるいは窯たき、窯出し展まで、イベント自体は大体20日間開催をしておりました。

労力としましては、担当課職員は別としまして、市職員の動員は約200人、窯元の協力員としまして延べ120人、それ以外に窯出し、ふるまい等に延べ100人の地元の武内町の皆さんの協力を得ているところであります。

**○議長（牟田勝浩君）**

22番松尾初秋議員

**○22番（松尾初秋君）〔登壇〕**

今答弁いただきまして、大変労力がかかったというのがよくわかりました。

実はちょっと写真を持ってきたので、まず写真を見ながら話をしたいと思います。（パネルを示す）これは資料やっていますから、持っとんさあでしょう。これが以前の灯籠祭りですね。そのときは登り窯祭りと言ったんですかね。これは市長、写っとんさですね、本人。これは平成20年の最後のやつだと思えますけれども、19年度にあったものですね。こういう

ふうに、前議長もここに写っておられますね。こういうふうに火入れをされてですよ。そして、地元のこういうふうな芸能をやっておられまして、こういう感じやったわけですよ。こういう感じの祭りやった。私思うばってん、もうこういう祭り、今どき、はやらんでもんね、はっきり言うて。今はこういうふうに変わっとるわけですよ。(パネルを示す)今はこういうふう変わっとりまして、にぎやかな感じですよ。こういうふうに変わっとるわけです。それで、もっといい写真もあるんですけども、物すごくきれいな写真がありまして、こういうふうに変わっとるといことですね。

質問になるんですけども、私、不勉強で申しわけないんですけども、飛龍窯祭り、久しぶり行って、こういうふうな変わっとつとを私も現実感じたわけでございますけれども、不勉強で申しわけないんですけども、こういうふうに変わった経過について、何でこういうふうに変わったか、その辺からまずお聞かせしていただきたいと思います。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

経過はやっぱり費用対効果なんですね。やっぱり職員のかわいそうかったですね。もう本当に徹夜、徹夜、徹夜の連続で、かつ私も、やっぱりひよったとがいかんやったですね。私らしくなかった。やっぱりこれは急に変わったときに、これしよおぎんた、前の人たちのことば全否定しよごたあ感じになるじゃないですか。特に僕は初秋議員と同じキャラやけん、そうなってくると、やっぱりそれはよくなかなと思って、最後1回ちょっと自分の目で同じオールドスタイルを試してみて、それでどうしようかというのを考えてみました。やっぱりそのときに、うちの職員とも地域団体の人とも話をしたときに、やっぱりこのまますっぎマナーになってもうだめでしょうということ。それと窯でも、谷口議員の昔は飲食したらいかんと言いよんさったばってんが、しよんさったわけですよ。ですので、そういうことも踏まえて、やっぱり今観光客の方、地域住民の方に喜んでいただくことをどうすればいいかということで、実はこれは時期が秋口の深まったときだったんですね、その前までは。しかし、どんぴしゃ、バレンタインデーの日がちょうど週末と合うたんですね、そのときが。じゃ、うちの職員で犬塚というおもしろい職員がいます。そこの弟子の田島というのがあります。そこで考えたときに、やっぱりこれからはバレンタインデーばいということで、ぴんかん来て、もうこれからはもう私一切相談ありません。もう職員主導で、あるいは地域住民の皆さんたちを巻き込んで、やっぱりこのイベントにしましようということで変わっていきました。やっぱり余り口出さんほうがよかなと思いましたがね。職員が自分たちの力で、自分たちの夢を持って、そいば地域住民を巻き込んでやっていくという意味で変えたところ、やっぱりそれが今物すごく伸びてきよおとは口コミなんですね。それとやっぱり携帯です。携帯で写真ばしゃばしゃ撮って、すぐメールで送ったりツイッターとかブログに入るっけん、そいば

見た人が、驚くべき光景があったとが、夜もう6時ぐらいにはもう暗かですもんね。そいば見て、7時半とか8時に来んさあわけですよ。あ、こいがこれからのお祭りばいということをおもいましたので、重ねて言いますけれども、これはやっぱり犬塚です。うん、犬塚マジック、そういうふうにおもいます。やっぱりうちの職員は大したもんです。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

経過はわかりました。私も今ちょっと市長が経費的な話もちょっとされましたけど、確かにこれは経費、今のほうが安かと思うですね。前ざっとなかったですもん。私も見よって、これは職員べらいして、これで価値のあつとかねと私も思って、この祭りも久しぶり行ったんですよ。それでこの変わったのが、本当に変わったことがわかりました。それで質問出したんですけども、そこで、ちょっと経費的にどうなんだという質問をしたいとおもいます。現在の祭りの経費と以前かかっていた経費、その違い、恐らく私は物すごく前のほうが高かったとおもいますけれども、これ金銭的に直して教えていただきたいとおもいますけど。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私が市長に就任させていただいた年はオールド、旧型の飛龍窯祭りをして、大体毎年毎年約1,300万円かかっておりました。1,300万円ですよ。今は実質のイベントで大分さま変わりをして、イベント経費全体で450万円です。ですので、職員動員も以前の4分の1になりまして、かなりコンパクトな祭りにしましたので、そういう意味では、もう費用対効果まで含めると多分10倍から20倍の価値があるということをお、谷口議員よろしいでしょうか、答弁しておられますけれども、そういうことで、私はそのように、これはよかったなとおもっております。

とにかく、やっぱり持続可能にするためには、職員の負担とか地域住民の皆さんたちの負担が最小限になることが一つ持続可能なポイントだとおもっておりますので、さらにそういう効果を見定めて続けていきたいというふうにおもっております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

前が1,300万円、現在は450万円、それで職員の動員も4分の1で済んでいるということで、わかりました。

結構今のほうがやっぱりお客さんも多かと思うわけですよ。私も行って、バレンタインのときだったからわかりませんが、若い女性とか男性、アベックの人がたくさんお

って、知らん顔がたくさんおったわけですよ。それで私も聞くところによりますと、初日は5,000人、次の日は7,000人、合わせて1万2,000人のお客さんが来られたと。それで、その間は宿泊客、武雄の宿泊施設の宿泊客は多かったという話も聞いております。

私ちょっと思いついたんですけれども、ちょっと写真もう一回出したいと思います。この祭りですね。(パネルを示す)今こういう感じなんですけれども、ここに、今はこれは目で見て楽しむ祭りなんですよね。もう一度楽しむために、私ちょっと思いつきです。申しわけない、思いつきなんですけれども、これは質問するに当たって、前回の質問の議事録を読んでいまして、何か灯籠、灯籠ば言いよんさあとかなんとか書いてあったですもんね、窯の中でかなんか、ちょっと私も不確かなんですけれども、ぱっと思いついたんですけれども、この辺に香炉ば置いて、ずっと香炉ば置いていって香ばたいたりしたら、ちょっと坂道になっとおけん、より一層この祭りが心に残るような祭りになるんじゃないかなというふうにちょっと思いつきました。香をたいていけばですね。ということは、目で楽しんで、においを鼻で楽しむというような、こういうふうに工夫すればいいんじゃないかなと、これは私の思いつきですけれども、質問として香炉で香をたくことについてどうでしょうかね。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、いいですね。これがやっぱり私は質問だと思うんですよ。もう前向きにどんどん行くということで、たきます。しかもレモングラスを中心としてたきたいと思っています。これを、香をたいて功を奏すということになるかと思っています。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

香をたいてくださるというのはわかりますけれども、レモングラスはどうかなというのはちょっと私の個人的感じですね。要するに、私は香をたくとするならば、やっぱりこの若い職員の女性の人にずっとかがせて、どの香が一番女性の人が心を打つか、その辺を聞いて、市長はそういうふうなレモングラスというのを言われましたけれども、私はどうかなというのがあります。何かありますか。どうぞ。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そうすることによって、香をたくことによって、効果的になるようにしたいというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

次に、ハウステンボス周遊バスについてお尋ねをしていきたいと思います。

ちょっとここチラシを持ってきましたもんね。（チラシを示す）ちょっとチラシに「武雄ハウステンボスバスツアー1,000円」ということで、参加特典として、宇宙科学館に20%割引で入れるとか、お土産品、箱菓子も10%割引、これは向こうのほうから、ハウステンボスのほうから来た方についている特典だと思うんですね。それで、武雄からハウステンボスに行く場合は、例えばハウステンボスの500円割引のプレゼントとか、こういうふうなものが載っていました。

それで、私はこの事業で、今、7月16日からかな、始まっていると思いますけれども、夏休みいっぱい試してみても、8月いっぱいまで試してみても、この47日間の間にお客さんがどのくらい利用されたのか、まずもってお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

お答えします。

この事業につきましては、ハウステンボスと周辺自治体の9市町が連携しまして、観光ルート、観光資源を開発するというふうなことで、西九州地区の活性化を図る目的でハウステンボス周遊観光協議会の事業として、武雄ハウステンボス間に周遊バスを運行しております。このバスですね。（パネルを示す）このバスで運行をしているところであります。

7月につきましては、16日間の運行で利用者は52名、8月は31日間の運行で利用者は175名、合わせて227名ということになっております。1日の平均乗車率は4.8名となっているところであります。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

4.8人ということでわかりましたけれども、実はこれは私が7月25日、保養村協会の関係で草刈りに出とったわけですよ。バスの運転手さんと話す機会がありまして、それは実は、ぱっと雨が降ったからエントランスですかね、あそこのところにぱっと避難したら、ちょうどバスの来たとですよ。だれも乗る者おんされんやっただすね。そこでお話をしたとき、「どがんですか」と聞いたら、「いや、ゼロんごたあですもんね」と、「私、今まで2回ばかり乗ったばってん、ゼロやっただすもんね」という話やっただす。「そがん少なかどですか、そがんゼロですか」と私も言うたら、ゼロと。ほかの運転手さんも交代交代乗っているから、ほかの運転手さん聞いたら土日で三、四人ですもんねというごたあ感じのお話やっ

たです。そがん少なかと、もうこれは周遊バスが始まってもう10日ぐらいたっていたころですもんね。ちょうど7月25日だった。

質問として、7月16日から8月31日まで47日間で乗車ゼロの日は何日あったんですか。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

乗車ゼロの日につきましては、7月は7日間、8月も7日間ということで、計14日間ということになっております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

ということは、47日間あったうちの14日ということは、3分の1弱ですね。弱、ゼロの日があったということですね。

では質問として、一番多かった日はその間、その期間、間、いつですか。それで、そのとき何人ですか。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

一番利用が多かった日は8月19日の金曜日で、利用者数は34名になっております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

これは往復乗ってもカウントされるからですね。だから、これはタウンステイの子どもたち、福島の子もたちが来られた日に活動で使って、政策で使っているんですよ、はっきり言って。8月19日は、もうこの人たちだけですもんね。大人3人、子ども14人がダブルで行っているから、行き帰りですよ。ただそれだけですよ。私、このバス事業を始めるに当たって、担当課は何人ぐらい大体見込んでいたんですか。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

運行当初につきましては、周知が不足ぎみというふうなことでありまして、ある程度の苦戦を覚悟しておりましたけれども、運行当初としましては1日平均10名程度を予測しておりました。実際運行しまして4.8人というところでは、善戦はしているというふうに私は思っております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

善戦しているんですかね。半分ですよ。半分以下。私、これは始めたことはいいと思うんですよ。最初、やっぱり武雄に泊まっている人がそういうふうな付加価値をつけた、これはよか考えねと思うたばってん、余りにも少なかですもんね。平均の4.8人ですよ。それも福島とか、そういうのを政策的に行ったものなんか足しながら4.8人ですよ。

私、この事業を始めるに当たって、県から400万円補助金があって、武雄市のほうが300万円、計700万円でこれを始めていると、もちろんハウステンボスのほうも支出はありますけれども、武雄市としては700万円、300万円の県の400万円ですよ。それで、これは3年間、担当課から聞いたら、3年間続けたいという話を聞いたわけですよ。その場合、県の補助金400万円、今後これはどうなるんですか。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

このバス事業に取り組むに当たっては、九州新幹線の整備に合わせて魅力ある観光づくりを進めるために、県の新幹線活用地域づくり事業補助金を活用しているところであります。

最低3年間はバス事業を実施していきたいと考えておりますけれども、県からの補助金、これは限度額ということですが、今年度は400万円ですけれども、来年度は250万円、3年目につきましては150万円というふうなことになります。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

ということは、このまま同じ事業を続けたら、県の分が減る分、武雄市がよんにゆう払わんばいかんとですよ。今は400万円、300万円で700万円ですよ。次は、県が250万円だから市の負担は450万円になるわけです。それで3年目ですよ。県が150万円、じゃ、市は550万円払わんぎできんとですよ。

それで、私思うばってん、3月までこれはされる。もう始めたことはいいんですよ。私は、これはおもしろいから何でも、私も何でもして見て、これがして見て結果が、結果がこれ以上ふえないのであれば、私はこの事業をやめる決断をしていただきたいと思うわけですよ。もちろん努力をしていただきたいと思う。3月までして、ある程度の結果を出してもらったら、私は続けてもいいと思いますけど、このままの状態じゃ、おおむねいっていますという話ですけど、10人の見込みでたった4.8人ですよ。4人、5人ですよ。これじゃいかんと思えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕は、それは違うと思いますよ。やっぱり最初周知の不足というのは、どの世界でもそれはあります。どんなにスーパースターでも、やっぱり知られとらんというとはあります。でするので、やっぱり事業を継続するには石の上にも3年、太陽光の上にも3年、ハウステンボスの上にも3年というふうに思っていますので、それを基軸として、最終的に議会と相談をして判断をしたいというふうに思っています。

それで、これはとりもなおさず2つポイントのあつとですよ。1つは、ハウステンボスとの連携強化ですよ。これは絶対せんといかん。これは平戸も嬉野も戦略的にしよおわけですよ。だけん、おつき合いの範囲ということは絶対せんばいかんですもんね。

それと、もう1つです。これもっと大きなのは、中国人の観光客なんですよ。来年、上海—長崎航路が、今のまま行けば、ちょっとおくれていますけれども、開通します。そのときに、我々はハウステンボスだけじゃ吸収できんわけですよ、中国人の観光客というのは。でするので、それをこのバスに呼び込むというためには、やっぱりハウステンボスのさっきの関係ありましたけれども、今の時点でその環境を築いとかと、その時点でやってくださいとて、それは飲まんですよ。でするので、それはやっぱり私ハウステンボスの澤田社長と話をしました、もう直で。話をしたときに、澤田社長も言いよったですもんね、最初の初年度は苦戦しますと。ですが、ハウステンボスも経費は度外視して、中国人の観光客を周辺に呼ぶためにはやっぱりこれはしますということを言われましたので、私はその澤田社長の意気にこたえたいというふうに思っています。

ただ、県の補助金というのは減っていきます。減っていきますので、のんびんだらりの時刻表じゃなくて、時刻表が地獄表になっですもんね。でするので、そうではなくて、やっぱりそこはもう少しピンポイントでして、なるべく運行経費が少なくなるような、それともう1つ、ポケモン、全日空機のポケモンば見っぎ、だいでん写真ば撮いよおとですよ。もう写真を。出張とかで使ったときに、うちの古賀秘書官も写真ば撮いよんさあですよ。それなんですよ。要は、これはもう1つ内装なんですよ。ここに行けば、例えば子どもたちの、自分たちの子どもたちの絵があるということであれば、それは乗りますよ。だけど、その内装が、まだ普通のバスと一緒にすもんね。外装はこうですけども。でするので、そういうことをバス自体に魅力を高めることによって、これは乗ったほうがおもしろかばい、かっこよかばいということ、しかも、ディズニーランドに例えば行くバスとかやったら、もうそこは映像の流れようすもんね、その前のところで。その工夫を、このバスに乗ること自体がおもしろかばいということについても、私はしていきたいというふうに思っています。

いずれにしても松尾初秋議員はこの議会の中でも非常に気の長い議員だと認識をしております。

ますので、ぜひ温かい目で見てほしいなというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

おつき合いで市の税金を使われるというふうな感じに聞こえました。

ただ、私は3年ぐらいしてみらんぎ、石の上にも3年という話をされましたけど、スピード化の時代だから、昔3年で今1年ですよ。私はそう思いますから、ある程度1年ぐらいで決断を出してもらいたいと私は思います。これはもう市長と見解は違うかもわからん。

ただ、中国人のお客さん来られる。これはよくわかるんですけど、本当に武雄にこれ周遊してもらって、魅力感じるかなというのがあるわけですよ。確かに、今パワースポットブームで巨木に対して日本人は結構そういうふうなブームありますけれども、むしろ私は、もし中国人の方がハウステンボスに来られたら、周遊バスで、例えば鳥栖のアウトレット、ああいうところの買い物とか行くなら、それなりに付加価値があるかわかりませんが、いまち私は武雄に来ていただいて、本当に中国人が喜んでいただけるかなという不安もあります。

だから、やっぱり石の上にも3年という話はわかりますけれども、それはもう昔から石の上にも3年ですけど、今はもうスピード化の時代だから、もう1年ぐらいでやっぱり決断を出していただきたいと思います。もう私はこれ以上言いません。これはやっぱり見解の相違だということわかりますけれども、いずれにしても交流人口がふえるなら、やっぱり宿泊人口ばふやささんばいかんと思うわけですよ。

それで、次の質問に移っていきたいと思いますけれども、これは行政視察についてでございます。

行政施設の対応ということで出しておりますけれども、今、行政視察で宿泊客に相当つながっていると思うわけですよ、行政視察の件でございます。私、市長におかれては、今後ともいろいろ取り組みしていただいて、行政視察に対する材料を提供していただきたいと思ます。

私も資料をいただきました。これは議会のほうからいただいて、ことしの8月31日まで、とにかく去年の9月1日から1年間ちょっと出してくれということで、事務局長にお願いしてつくってもらいました。それで、団体の人が、受け付け団体が69件ですね。それで、人間が491人来られているんですよ。そのうち宿泊が37件、270人、行政視察の関係で、議会関係で、武雄の宿泊施設に泊まっていたらいますよ。

で、これ佐賀にも聞いてもろうたんですよ、議会事務局を通してですよ。佐賀市はどんなもんか。県庁所在地ですから、何といたって、佐賀市。佐賀市のほうは同じ期間聞いたんですよけれども、53件の396人です。じゃ、武雄のほうが多かですよ。それで、そのうち

佐賀に泊まりよんさあとは幾らですかと、17件の161人ですよ。武雄、幾らですか、泊まりよんさあ者は、270人ですよ。物すごく多い。

私、これは私の、比較対照するものがないからわからないけど、私は武雄の行政視察は九州一ぐらいあるんじゃないか。もっと言えば、5万人の規模、5万人の規模の人口で考えれば日本一という感じもします。ただ、資料がないから、これは私の思いですよ。

それで、これはちょっと質問になるんだけど、これは今説明したのは議会からもらった資料、議会の話をしました。これ以外も視察があっているやに聞きます。その辺はどうなんでしょうか。お答えしていただきたいと思いますけれども。

**○議長（牟田勝浩君）**

角政策部長

**○角政策部長〔登壇〕**

データをとった分で御説明いたします。

秘書広報課で担当している部分でございますが、平成22年度で10月から3月までの間、これは13団体の187人、うち宿泊が56名、平成23年度、今年度、4月から8月までの間で7団体で70人ということでございます。

**○議長（牟田勝浩君）**

22番松尾初秋議員

**○22番（松尾初秋君）〔登壇〕**

これは質問になるんですけども、実は私はこれを質問するに当たって、議会にいろいろ話を聞いたわけですよ。行政視察をやっぱり議会事務局の対応する職員がおらんばかりで、ほかの用事でおらんばかりで、実際視察が入っている時間にもう1個視察とかあって、断った分があつとですよ、はっきり言って。これはもったいなかですもんね。これは絶対もったいなくて、一生懸命これだけ宿泊客につながっているのに、私はもったいないと思うわけですよ。

そこで私は質問として、議会事務局の職員の増についてどうなのか。増していただきたいわけですよ。はっきり言って、これだけの視察をこなしているんだから、もしそれができなかつとすれば、どこかの課、観光課でもどこでもいいでしょう。宿泊客につながるという意味ではですよ。どこの課とはいいませんけれども、行政視察の対応を一本化していただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

やっぱり市民の皆さんたちがどう思うかだと思うんですよ。議会視察が、確かに多分5万都市では日本一だと思います。特に私が在庁しているのはいつだということで問い合わせ

が物すごくあるんですね。私がお会いということになれば行きます。ただ、嬉野に泊まりますと言いますと、私がお会いすると言います。ですので、武雄に泊まるのが条件で私がお目にかかると、高飛車なことを今言わせてもらっています。

〔22番「そいでよか、そいでよか」〕

ありがとうございます。それで、どういうことかということ、市民感情としてどうかということ、これを考えた場合に、これこそやっぱりやりくりの問題だと思います。ただ、松尾初秋議員がおっしゃったように、やっぱり断りよるケースでやっぱりあるとですよ。これはもったいない。ですので、やはり議会事務局と秘書広報課をチームにします。チームにして、そうすることによって、例えば議会事務局がやっぱり忙しかときあるですもんね。そのときは秘書広報課、政策部で、やっぱりそれは対応するようにして、いずれにしても全部吸収するようにしたいと思います。

その上でぜひお願いがあるのは、議員の皆様方も視察に行かれるじゃないですか。とってありがたいと思っています。そのときに、武雄に来てくいろて言うてくれませんか。言いんよさあですね。ありがとう、上田議員とかしよんさあけんですね。そういうふうにして、そう来られることによって、また違う交流が進んでいくと思いますので、私はそういったことを期待したいというふうに思っています。基本的に視察の場合は、市民の皆さんたちはまだ御存じじゃないかもしれませんが、平日来んさあとですね、平日。宿泊客が普通少ない平日に。ですので、これは一つは視察が私は観光のポイントとなっておると思います。ですので、私もそういう意味では観光資源だと思っていますので、ぜひこれはユーストリームでも流れていますし、今も多くの方々が見られていますので、ぜひ武雄にお越しいただきたいと思っています。その上でいっぱい武雄にお金を落としてください。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

私たちが視察に行ったときは武雄に来てくださいと、泊まってくださいと、しっかり私たちも言っていきたいと思っています。

次に、庁舎建てかえについてお尋ねをしていきたいと思っています。

これは、他の議員も、吉川議員ですけれども、前回お話をされておりました、エレベーターが2階までしかなかという点の話されておりました。確かにそういうと私も気づいたんですけれども、もう市民が一番利用するような、市民課が大体2階から始まるというのも私もおかしいと思いますよね。いろいろ問題があろうと思いますが、私が一番わかりやすい話をしたいと思っていますけれども、実は委員会があつとって、私は皆さん御案内のとおり産業経済常任委員会に所属して、委員会室、第1委員会室です。それで委員会があつとって、いろい

ろ話をしとる。隣の委員会からクレームの来っつです。「松尾議員、テープに入りよおですよ」で。「は、そりゃ構造が悪かでしょうもん」と話したですよ。

で、私は思うんですけども、私の声が高いのが悪いのか、構造が悪いのか、市長どちらが悪いと思いますか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりほどほどが一番だと思っています。どっちがいいとか悪いとか一元的に言える話じゃない。だけど、私は松尾議員が声大きいというのは、元気はつらつオロナミンCで、それはいいことだと思っています。やっぱり声の大きい人は長生きするということもありますので、ぜひそのスタイルで貫いて行ってほしいなと思います。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

私は構造が悪かですわねと言うてほしかったんですけども、いいです。

それで、私も特例債があるうちにすぐにもでも庁舎建てかえをすべきだとは思っておりますけれども、6月議会の中でも耐震診断の結果を踏まえてですよということでございました。それで、きのうの議会ですかね、上田議員のときにも市長が改修するか建てかえにするかは、その判断をするということで答弁がっておりますけれども、確認で聞きます。こういうふうな診断は改修か建てかえかを判断する。これに間違いはないですか。簡単にいいですよ。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

間違いありません。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

ということは、判断基準ばここから聞いたかわけですよ。ちょっと例えば診断して5,000万円ぐらい、仮の話ですよ、5,000万円ぐらいやったら改修していっちょこ、以下やったら改修しゅうかとか、それ以上やったらもう建てかえていっちょこうかとかさ、どこかで分岐点のあるわけですよ。そいけん、市長はどんくらいば考えとんさあじゃいですよ。その辺ばやっぱり一番知りたかと思うわけですよ。どこかで線ば引かんばいかんと思いますので、その辺についてはいかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはやっぱり線引きが必要だと思うんですけども、その直近の財政状況とかそういうのを見て判断したいと思います。どこかの民主党政権みたいな発言になりましたけれども、その上で参考にしたいのは県の総合庁舎ですよね。あそこが、あれは改修ですよね。改修ですよ。そのときの話をちょっと聞いて、あそこは改修で行きましたけれども、多分そこが線引きになると思います。あそこももしあれですもんね、建てかえたいという意向はあったとですよ。意向があって改修に行ったときに、多分その金額は議員がおっしゃるような金額が一つのポイントになったと思いますので、これを人口要件とかいろんな地域要件を加味した上で、その線引きのラインというのを決めたいと思っています。

ただ、これは行政だけが決めるのではなくて、議員も入っていただく建設委員会ですよね、建設委員会の中で議論をしていただきたいというように思っています。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

今、総合庁舎の改修の金額を目安にしたいというのが一応わかりましたので、金額が幾らやったとか私もよくわかりませんので、それは後から調べて、こんぐらいやったらこがなかなどといった一つの判断ができるかもわかりません。

それでは、私の主張はもう建てかえんさいという考えですもんね。建てかえたとき、その場所ですね。これは私の自分の考えをまず言いたいと思います。

これは、確かに駐車場、鉄道用地かかって86台ぐらいなくなるかわかりませんが、建てかえの場合やっぱり今の現地ですね。現地といえども、ここは壊してから建てるわけいかんですもんね。だからまずもって裏の駐車場のあるでしょう、市の職員の。あそこに建てた後に、こいば壊してこいば駐車場にするとかですよ。どっちにしろ、こいば壊したって仮設ばつくらんばいかんと同じことですもんね。その間、駐車場がのうなるけん、そりゃいろいろ知恵ば絞らんばいかんばってん、私はそのほうが一番、今までの流れから一番いいんじゃないかなと、これは私の個人的考えです。

そこで、もし建てかえる場合、これは市長に聞きたいんですけども、庁舎の位置についてはどのように考えておられるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

庁舎の位置については3要素あると思います。1つは、さきの被災の関係からして、大震災の関係からして、安全・安心の場所でなければいけない。それともう1つは、市民感情で

あります。それともう1つは、アクセスの問題であります。この3つが満たされるところを最終的には選ぶということになると思いますけれども、そのためには先ほど松尾初秋議員がおっしゃられたような案、そしてさまざまな案が市民の皆様方にも議員の皆様方にもあろうかと思しますので、案を幾つか討議する必要があると思っています。ですので、建設委員会で最終的に多分判断はしないと思います。幾つか案が、例えば10ぐらい案が出ますといったときに、最終的に例えば2つか3つ出てくると、それを僕は議会で最終的には決めてもらおうと思っています。あくまでも議員の皆様方は市民の代表であります。私には提案権しかありません。そこを議会で決めていただいた上で、これは多数決になると思いますけれども、決めていただいた上で、私は案をそこにするという、議会の議決を受けてするというふうに持っていきたいと思っていますので、まずは幾つかやっぱり案の提示ですよ。というところが今の段階かなと思っています。それはもちろん、個人的には私はこの場所がいいと思っていますので……

〔22番「そうですか」〕

個人的には——ごめんなさい、それを答えればよかったんですね。いいと思っているんですけども、それでもやっぱりいろんな皆さんの意見を聞いてみたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

いろいろな討議会をして、いろんな意見を聞くということ、個人的にはここがいいんじゃないかということも聞きましたので、これはこれでいいと思います。

次に、ウルトラクールビズについてお尋ねをしたいと思っています。

まず、これをちょっと演告を読んでいきたいと思っていますけれども、市長の演告ですね。

「「ウルトラクールビズ」は、室内温度28度の厳守と節電意識の一層の徹底を目的に、夏の軽装として実施してきた「クールビズ」をさらに進め、これまでのノー上着、ノーネクタイに加え、ポロシャツ、Tシャツ、短パン、スニーカーなども認めることにしたものであります。この「ウルトラクールビズ」については、国内のメディアのほか、アメリカ大手テレビ局のABCを通じて全米に放送されたと聞いております。市民の皆様からも好意的にとらえていただいております、また、職員も軽装で仕事の能率がアップしたと好評であります。」と、そして、「「ウルトラクールビズ」を開始した6月では、1か月の電力量は前年度比約20%の減となりました」で、こういうふうなことを演告に書いておられまして、もちろんこれは5日に読まれておりました。

それで、ここで私の考えとかいろいろ言うんですけども、私も元祖ウルトラクールビズ人間ですもんね。これは皆さん御案内のとおり、御承知のとおりだと思います。で、今ちょ

っと来やすうなつたですよ、市役所に来つとき。私も確かに会議のあるときはびしゃつとスーツをしてきますけれども、ふだんはウルトラクールビズですよ。で、前は何かもう自分だけが浮いていた感じがしつたわけですよ、こうして見よつても。ばつてん今は、もう何かなじんできたですもんね、本当に。そういう気持ちでございます。

それで、私、二、三点、気づいた点を話していきつたいと思つうんですけれども、ちよつとパネルを見ながら話します。これですね。(パネルを示す) これは市長が写つとんさあですね。武雄市ウルトラクールビズ、短パン、サンダルですね。「ご来庁の皆様へ」と書いてあるんですよ。「武雄市役所では、クールビズを実施中ですが、今夏一層の節電が求められていることから職員にはこれまで以上の軽装を許可しております。勤務中、ポロシャツや短パンを着用した職員もおりますが、どうぞご理解くださいますよう、お願い致します。」というこつとで、こつうふうなものが玄関に載つておりました。私、これ二、三点気づいた点があるわけでございます。それは、これは質問するに当たつて、8月31日ですよ、支所の状況ば見に行つたんですよ。山内は確かにおんさつたですね、クールビズ。北方は一人もおんされんとですよ。これを読んでくださいよ。「着用した職員もおりますが」、「おりますが」ですよ、おらんです。もちろん服装は自由だから、強制じゃないから、それはいいんだけど、せつかくこれだけ取り組んで、大手マスメディア、アメリカのABC、靴のABCじゃないですよ。大手マスメディアのABCで取り上げられているんですよ。本当に残念でならんやつたわけです。

私、もういっちょ気づいたんですよ。これは市役所の3階、この本庁舎の3階、こつこ結構クールビズおんさあつですよ。2階がおらん、余り少なか。ゼロとは言いませんよ、少なかわけですよ。本来はやつぱり市民に接するPRの意味で考えれば、この2階こそ私はふえんばいかんと思つうんですけれどもね。確かに服装は自由ですよ。

そこで、質問として何で2階は少ないのか。

#### ○議長(牟田勝浩君)

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

普通気温というのは下に下がれば下がるほど涼しくなるわけですね。だから3階と2階やつたら2階のほうが涼しいというのはあります。それと気分の温度差というものもあるんですよ。それはどういふことかといふと、やつぱり市民感情、市民の皆さんたちが来られるわけですよ。そのとき、やつぱり急に変ゆつぎいかんですもんね。急に変えてよかところと悪かところがあつて、やつぱり市民がごらんになられたときに、市民感情といふとも私も大事にしたかとやつぱり思つうわけですね。3階の場合はどつちかといつたら発想とか企画のほうやけんが、やつぱり自由な発想といふのはもう自由な服装、ね、松尾議員御理解いただけると思つうんですけれども、僕はそれでいいと思つうです。そして、2階のほうは徐々に変わつていく

ということでいいのかなと思っております。ですので、ハウステンボスにも3年、服装も3年と、そのように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

今、不快な印象を与えないようにというふうな答弁だったんですけども、私はそれは余り考え過ぎじゃないかなと思うんですよ。演告にも市民の皆様からは好意的にとらえていただいておりますとも書いてあるし、もっと自信を持っていただきたいと思うんですよね。もちろん自由ですよ。服装は自由ですよ。

もっと気づいたとがあるんですよ。それは何かというと、幹部職員、部課長、これはおらんとですよ、一人も。一人もおらんとですよ。確かにポロシャツまではいるんですよ。でも、このクールビズのスタイル、こういうスタイル、サンダルとか、おらんとですよ一人も。それで、ここに何でおらんかと考えたら、これは私の推測ですよ。これは示し合わせて、しゅうみゃーかと、示し合わせとんさあか、それとも短パン持ちんされんかわからんですね。私そう思いますけれども、そこで、私、これ広がるために、これ市長がしよっても広がらんですもんね。こう言うたら失礼かわからん。トップの人にそんなこと言うたら失礼かわからん。でも、やっぱり市長はしても、あ、市長はそんぐらいのことはしんさろうというイメージがあります。でも、私、この議場における山田つながる部長とか前田副市長あたりがぱんとすれば、そりゃ広がっていくと思うわけです。影響力が物すごくあると思いますけれども、前田副市長自身どがんでしょうか。これはやっぱり推進してやっていただく気はありませんか。質問ですよ。

○議長（牟田勝浩君）

前田副市長

○前田副市長〔登壇〕

まず答弁の前、今回のウルトラクールビズですか、これについて、私も何回か歩く人と話をするんですが、また市長が言うたとやろうという感じですが、今回の場合は職員が提案をして、人事のほうに提案をしました。そういうことで最終的に市長も相当悩んだみたいですよ。どがんしゅうかなということ、最終的にはやってみようということ、今回の制度になったわけですよ。そういうことで、市長は仕事で相当半ズボンで来ております。初秋議員も庁内の中で半ズボン姿見ます。似合う人はいいいですが、私は似合わんとですよ。そしてもう1つは、短パンそのもの、半ズボンを持たんとですよ。そういうことで、できるだけ、まずは家に帰ったときには半ズボンでまずして、徐々にしていきたいということ、これについては年相応で、そういうことで御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

制度をやってみようという話があったけど、あなたがやってほしいんですよ。いや、本当の話で。それで、そのことが影響力があって、ずっとつながって行って、せっかくABCに、アメリカで取り上げられているんだから、やっぱり幹部職員がしてほしいと思います。もちろん服装は自由ですよ。

それで、市長の演告の中でも約20%の節電効果があったという話がございましたけれども、もっとわかりやすく金銭に直せば大体どのくらいだったか、これについていかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

昨年と比較しますと、7月の本庁では先ほど言われたように20%の節電効果でございますが、支所を合わせますと、6月から9月までで100万円程度を削減できるんじゃないかというふうに推測しております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

世の中は電力不足の中に、こういうふうな節電をされたということはやっぱり立派だと思うんですね、100万円と、金額がわかりましたので。

次に、水道料金体系。もうこれは最後の質問に移っていきたくと思いますけれども、考え方を聞きたいんですけれども、私は、水道料金だって電気料金だって同じ公共料金だと考えます。2つとも独占事業ですね。水道の場合やったら、もし料金を払うのが嫌なら井戸ば掘っかですよ。電気の場合やったら自家発電機ば置くじゃい、そいしかなかでもんね。それで、独占事業の場合は、国や地方公共団体が料金などに対して指導なり監督なりをしていかんばいかんと、導いていかんばいかんというふうに考えます。

そこで、今、一時電力制限令なるものがあって、これは東北電力か東京電力、東電かその辺の管内だと思いますけれども、大口需要者に向けてそういうものが発動されておりましたよね。それで、私は、電気の場合は、今世の中が電力不足、武雄市もウルトラクールビズで一生懸命節電されております。で、考え方なんですけれども、電力不足なので一般家庭の場合でも節約すれば節約するごと、やっぱり得するごたあ料金体系にするように、やっぱり国が電力の場合だから電力会社に働きかけていくべきだと思いますよね。これは考え方です。

それで質問として、この点について市長はこの考え方についてどう思いますか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

同感です。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

では、武雄の水道の場合はどうなのか。これは、武雄の水道の場合は西部の広域水道も入っとなつてますよ。今は水道が大分余っているんじゃないかなと思うわけですよ。水がどのくらい、質問としてどのくらい余っていますか。

○議長（牟田勝浩君）

宮下水道部長

○宮下水道部長〔登壇〕

平成22年度の実績で申しますと、施設の最大稼働率、これが約6割強ということであります。ですから、施設の水をつくる能力からいいますと、3割ないし4割程度の余裕があるということになります。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

6割で4割弱ぐらい余っていると、約ですね。わかりました。

私は水が余っている分、たくさん使えば使うほどやっぱり得するような料金体系にしているか、ばいばいかなるかと思うわけです。電力は別ですよ、足らんけん。節約すれば節約するほど得するようにせんばいばいかなと思うし、水道の場合は、使うぎ使うほど率として得するようにせんばいばいかなと私は考えます。現在1立米当たり304円、もう一律ですもんね。基本料金以上は一律なんですよ。幾ら使っても一緒なんですよ。この間に大量に水を使うホテルや大型商業施設などから相当井戸を掘って、という話も聞いております。金額に直して幾らぐらい、武雄市に本来入ってくるべきものが減ったのか。

○議長（牟田勝浩君）

宮下水道部長

○宮下水道部長〔登壇〕

地下水を掘りまして、それを自己水源とするというものを専用水道というふうに申しますけれども、専用水道を設置している事業所が武雄市内は6事業所あります。この6事業所のうち、実際に水道の使用料の実績として把握ができていたものが2社ございます。1社は年間530万円、もう1社が、これは平成18年度設置年なんです、年間450万円ということで、2社合わせて980万円ということが機会ロスということになっております。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

ということは6社のうち2社で980万円、あとの4社は、これは資料なかとですかね。その辺をちょっと教えてくださいよ。

○議長（牟田勝浩君）

宮下水道部長

○宮下水道部長〔登壇〕

あと4社のうち1社につきましては、当初より専用水道と、いわゆる井戸水を使用するという会社でございますので、もともとデータがございません。

それから、あと3社につきましては、平成14年度以前に設置をされておりまして、実際に水道の使用のデータが現在保存されていないという状況でございます。

○議長（牟田勝浩君）

22番松尾初秋議員

○22番（松尾初秋君）〔登壇〕

これは推定になるんですけども、わかっているのが980万円、あと3社が14年前やけんもうデータなかけんわからんと、恐らく何千万円じゃないかなと思うわけですよ、足したらね。相当の損失だったと思います。

それで、最終的に私が今言うたことで、大量に水を使えば使うほど、率として安くなるようなやっぱり水道料金体系に見直し、これについて、水道料金の見直しについていかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、そのとおりですよ。やっぱり料金体系を分けようと思っています。1つは小口、我々の、一般の御家庭ですよ、という料金体系と超大口ですよ。その線引きはまた議会と相談しますけれども、そこの線引きで2つに分ける。なぜそれを言うかという、やっぱり井戸水に行くぎんた、その分のお客取り逃がしたことになるわけですよ。ですので、そこは、要するに武雄の水道のほうが井戸水よりも安いというような体系にします。その上で、ぜひこれ大口の事業者の方々も見られていると思いますけれども、余り井戸水ば使わんごとしてほしかとですよ。やっぱり地球、もう水が今一番の財産、石油と同じぐらいの財産になりよるわけですね。実際、今武雄はそうでもないんですけども、いろんな地方に行くと井戸水のかれてきたと、結構泉源がかれてきたという話はよく聞くんですね。ですので、そいばどどん吸い上げるということは、正直言って環境に物すごく負荷ばかけよるのと一緒というふうに思ってほしかとですよ。ただ、個人の方々がいわゆる井戸水がおいしかし、

今までしよつたと、これはどうも言わんですよ。微々たるもんやけん。私が言いよるとは大口の顧客さん。そういう意味では新武雄病院はえらいですね。もう井戸水ば掘らんで、出てこんやったというともあつとですけど、武雄の水道を本当に使っていたらという意味では、本当に感謝をしたいと思っています。

ですので、繰り返しになりますけれども、今水道部に、これから指示をしますけれども、料金体系を分ける。その上でなるべく早くその料金体系で突き進むと、今まで井戸水を利用されていた方々も、でき得ればさっき6社でしたっけ、6社の方々もこっちの武雄の水道、使っていただくようにしむけるということをしてまいりたいと思います。

その上で、国に対して、もう工水とか浄水とか言いよる場合じゃなかわけですよ。あるいは、地域は言いません。武雄の近隣の都市でも、もう水が手に、のどから手が出るほど欲しいというところあるわけですよ。そこに何とかパイプを通して融通をするというのは、今の国の制度でできんわけですよ。ですので、そういったことを国に強力に働きかけてまいりたいと思いますので、とにかく武雄の水道、これは足らんとしたら話にならんですけれども、やっぱり今の余り方は尋常じゃなかですもんね。ですので、そういうことで水を売る、売水ですよ。売水行為についてももしっかりやっていきたいと、このように思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

22番松尾初秋議員

**○22番（松尾初秋君）〔登壇〕**

確かに井戸ば掘る規制はできんですもんね。お願いぐらいしかです。だからやっぱりこういうふうな体系に見直して、していけば井戸を掘るよりか、もうこのまま水道ば使いよつたが安上がりばいというごた形にもっていかんぎ、こういうものを防ぐとはなかなか難しいと思います。それでこういう質問を出しました。

以上で私の質問を終わります。

**○議長（牟田勝浩君）**

以上で22番松尾初秋議員の質問を終了させていただきます。